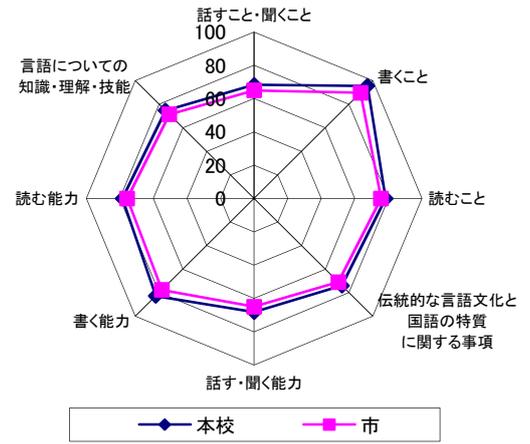


# 宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.2	64.9	69.8
	書くこと	95.6	89.8	81.9
	読むこと	78.4	75.6	75.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.0	71.0	75.0
観点別	話す・聞く能力	68.2	64.9	69.8
	書く能力	82.8	77.7	73.7
	読む能力	78.4	75.6	75.1
	言語についての知識・理解・技能	74.7	71.4	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

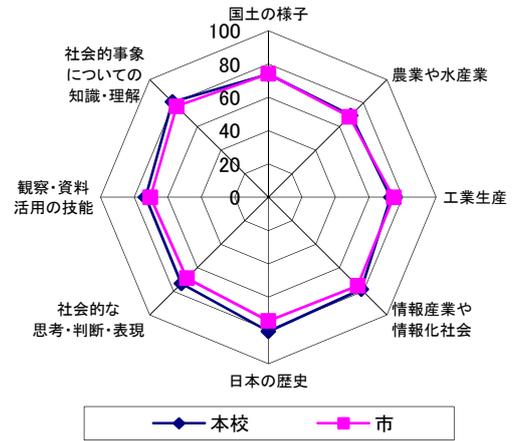
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率は68.2%で、市平均より3.3ポイント上回っている。</li> <li>○話し合いの内容を聞き、司会者の役割を理解して、立場や意図を明確にして話すことができるかを問う問題の正答率は91.8%と市平均よりも7.3ポイント高くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>○国語の授業だけでなく話し合い活動を様々な教科で取り入れたり、学級活動においてどの児童も計画委員として司会者の役割を経験させたりすることで、話し合いの基本となる話すこと・聞くことが身に付いてきていると考えられる。今後も自分たちの生活の課題を解決するような話し合い活動を取り入れ、主体的に意見を出し合う態度を身に付けさせていく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率は95.6%で、市平均より5.8ポイント上回っている。</li> <li>●指定された文字数で書く問題であったが、指定字数を越えてしまう解答が多く見られた。</li> <li>○2段落構成で文章を書くこと、自分の意見と理由を区別して書く問題では、正答率は97%を超えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>○日記や感想、日常の出来事などを意図的に書かせる機会を多く設け、書くことに慣れさせていく。</li> <li>○文字数が限られた用紙を用いて、自分が述べたいことを簡潔にまとめて記述できるようにしていく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率は78.4%で、市平均より2.8%ポイント上回っている。</li> <li>○物語の場面の描写を読み取ることや、登場人物の心情を読み取る問題の正答率は市の平均を5～8ポイント上回っている。</li> <li>●目的や必要に応じて文章の内容を読み取る問題の正答率が市の平均とほぼ同様である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>○登場人物の心情や様子を読み取るために、気持ちや場面のの変化や情景を表す表現に印をつけるなど、具体的な指導をしていく。</li> <li>○文章の内容のどの部分を根拠として読み取ったのかを意識させながら読み取れるように指導していく。</li> </ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率は74.0%で、市平均より3ポイント上回っている。</li> <li>○漢字では「圧縮」の読み、「富」の書き問題の正答率が市の平均を上回っている。</li> <li>●第5学年配当漢字の「制限」の書きが、正答率が50%と低い。</li> <li>●文の主語と述語を回答する問題では、64%、50%の正答率と市の平均を上回ってはいるが、理解されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>○漢字の反復練習を行うだけでなく、小テストなどを継続的に行ったり、文を書くときには意識して漢字を使用させるなどしながら定着を図るようにしていく。</li> <li>○文の構成を意識しながら文を書かせるようにしていく。話をする時にも主語がはっきりと述べられるように意識させていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	73.8	74.1	72.5
	農業や水産業	69.4	68.4	61.6
	工業生産	72.9	74.7	68.2
	情報産業や情報化社会	78.2	75.3	74.0
	日本の歴史	80.6	74.4	69.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	73.4	68.7	64.2
	観察・資料活用 of 技能	73.3	70.3	68.1
	社会的な事象についての知識・理解	81.0	77.3	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

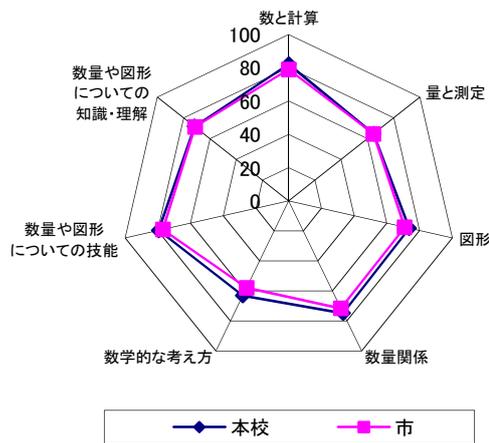
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>正答率は73.8%で、市平均と同様である。</li> <li>●気候の特徴を示したグラフから、該当する地域を回答する問題の正答率は市の平均を7%下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ただ知識を覚えさせるのではなく、地図帳や統計資料と関連させることで定着を図るようにしていく。また、自分たちが住んでいる地域の気候や地形の特色と比較しながら他地域を調べることにより、自分の国の国土について興味関心を高める授業を行ってほしい。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>正答率は69.4%で、市平均と同様である。</li> <li>○米の品種改良について、資料をもとに判断する問題の正答率は市の平均を4.6%上回っている。</li> <li>●日本の食料生産に関して、とうもろこしの統計資料をもとに現状を考察する問題の正答率が47.1%と正しく答えられた児童が半数に満たない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像や写真、様々な統計資料を活用し、資料の正確な読み取りができるようにする。その読み取った事柄から、社会的な事象の特色を理解できるように指導していきたい。また、読み取ったことを言葉にする作業を多く取り入れ、社会的思考力・判断力を高めていきたい。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>正答率は72.9%で、市平均を1.8%下回っている。</li> <li>●日本の工業地帯や工業地域の特色について、地図を読み取る問題の正答率は市の平均を5%下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の統計資料や地図上の位置を関連させるなど、社会的な事象を多面的にとらえさせる指導が必要である。単なる語句として地名や地域名として理解させるにとどまらないように、授業中に地図帳を常に手元に置き、地図上で確認させる活動を行う。</li> </ul>
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>正答率は78.2%で、市平均を2.9%上回っている。</li> <li>●情報ネットワークについて、コンビニエンスストアを例に考察する問題の正答率は65.9%で、市の平均を1.9%下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報ネットワークを利用する機会は、今後も増加していくと考えられる。社会科の授業だけでなく、道徳や学級活動等でも情報ネットワークを利用する際に考えなければならぬことを扱っていくようにし、メディアリテラシーの理解を促していく。</li> <li>学習した情報についての知識が、自分の生活とどのように関わっているのか、どのように利用されているのかを関連付けて考える場面を設けていく。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>正答率は80.6%で、市平均を6.2%上回っている。</li> <li>○年表を読み取り武士による政治の始まりについて考える問題と、黒船の来航による影響について考える問題では、正答率が市平均を大きく上回っている。</li> <li>●奈良・平安時代の文化について回答する問題の正答率が、市平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら調べ学習を行ったり、見学したりした知識はよく定着している。歴史的な事象に興味関心をもって学習が進められるような、教材の準備や導入の工夫を行っていく。</li> <li>年表や人物事典などを活用し、歴史的な事象と人物を結び付けて定着を図るようにしていく。学習範囲が広いので小テストなど復習を多く取り入れることで定着を図るようにしていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	82.2	79.0	78.9
	量と測定	64.7	64.6	66.2
	図形	73.6	70.9	77.8
	数量関係	74.8	71.6	66.6
観点別	数学的な考え方	63.1	57.8	54.8
	数量や図形についての技能	79.4	76.9	75.2
	数量や図形についての知識・理解	71.8	71.3	75.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

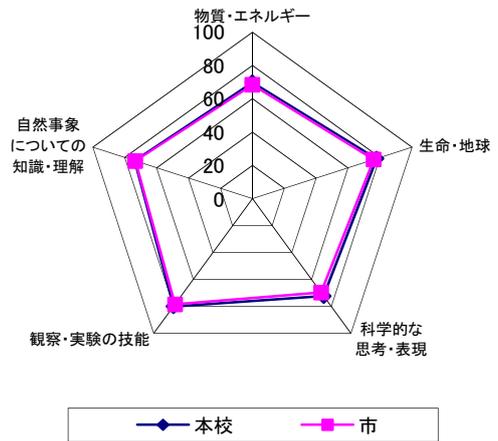
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○正答率は82.2%で市よりも3.2ポイント高い。</p> <p>●小数第一位×小数第一位の計算をする問題と、帯分数＝真分数＝真分数で、片方の分母にそろえる通分をする問題が市の正答率よりやや低い。</p>	<p>・正答率の低かった小数や分数の計算においては5年生の単元なので、やり方を再度復習し、計算ドリルの反復学習をこれからも続けていくことで定着を図ってきたい。</p> <p>・また、計算の後には確かめ算や概算で見直しをする習慣をつけることで、ミスが減らしていけるようにさせたい。</p>
量と測定	<p>・正答率は64.7%で市と同程度である。</p> <p>○台形の面積を求める問題は11.4ポイント、文字を使って2つの関係を式に表す問題が2.7ポイント市より上回っている。</p> <p>●4つの領域の中では市の平均を下回った設問が一番多い領域である。速さと道のりから、時間を求める問題や、分速を時速に直す問題の正答率が特に低かった。</p>	<p>・量を求める計算をする際には、速さと道のりと時間の関係を理解した上で、立式できているかどうか確認する学習を取り入れることで、理解を深めさせたい。</p> <p>・示された情報の中から必要な情報を選びとれるよう、具体物を用いながら操作したり考えたりする活動を取り入れる。</p>
図形	<p>○正答率は73.6%で、市の正答率を2.7ポイント上回っている。</p> <p>○図を見て、五角形の内角の和を求める式を選ぶ問題が、72.9%と市の正答率を12.8ポイント上回っている。</p> <p>●円の直径をもとに円周を求める式を答える問題では、正答率が36.5%と市の正答率を11.5ポイント下回っている。</p>	<p>・円周を求める公式の直径と円周率の関係を再度確認する。児童の状況に応じて、複合図形などの問題など発展的な問題を解決する力も身に付けていけるよう、習熟度別学習や少人数指導を生かして個に応じた指導の充実を図る。</p>
数量関係	<p>○正答率は74.8%で市の正答率より3.2ポイント高い。</p> <p>●単位量当たりの値を求める式を説明する問題では、市の正答率は上回っているが32.9%と全設問の中で一番正答率が低かった。</p> <p>○必要な情報を読み取り、比を使って値を求めたり、比べたりする問題では、市の正答率を10ポイント近く上回っている。</p>	<p>・図や数直線を用いて立式の根拠を説明する学び合いの場を多く設けることで、単位量あたりの値を求める問題の理解を深めさせる。</p> <p>・日常生活の事象の解決に、単位量あたりの大きさを活用して、合理的かつ適切に判断する学習を充実する。</p>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.9	68.3	68.1
	生命・地球	77.9	76.0	73.8
観点別	科学的な思考・表現	72.3	69.7	68.0
	観察・実験の技能	80.0	78.4	77.0
	自然事象についての知識・理解	73.7	73.4	73.9



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は、市平均をやや上回り、昨年度平均より2.2ポイント高い。</p> <p>○「ふりこのきまり」の問題の正答率は市の平均を大きく上回る。</p> <p>●メスシリンダーの目盛りの正しい読み方の問題の正答率が市の平均を下回っており、5年生で習った単元の定着にばらつきがみられる。</p>	<p>・器具の操作手順の理解や適切な扱い方に課題があると考えられることから、実際にメスシリンダーで一定量の水を図り取る活動を児童一人一人に保証する。</p> <p>・既習の学習内容についてのプリントやデジタル教材を活用し、定着を図るようにしていく。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は、市平均を上回り、昨年度平均より5.3ポイント高い。</p> <p>○「月と太陽」では、上弦の月の南中する時刻の理解や、月の形の見え方の推測における正答率が市平均を大きく上回る。</p> <p>●「魚のたんじょう」では、メダカのたまごや子どもの成長についての問題の正答率が市平均を下回っている。</p>	<p>・メダカの誕生や成長に関して、植物やヒトの誕生や成長との共通点を見いだしたり、差異点を捉えたりする学習活動を取り入れていく。</p> <p>・既習の学習内容についてのプリントやデジタル教材を活用し、定着を図るようにしていく。</p>